



神戸市保健所・保健センターの 新型コロナウイルス感染症対応への協力について

岩本里織 教授

取材を受けました。
NHKスペシャル「シリーズパンデミック 激動の世界」

新型コロナウイルス感染症感染拡大により、神戸市保健所・保健センターの保健師の皆様方が不休で対応されている状況は、多くのメディアでも報道されていました。そのような中、第3波が発生時の2021年1月末から2月中旬、第4波が発生時の4月から6月上旬にかけ、本学の看護教員の有志が、神戸市保健所・保健センターの保健師業務についてご支援をさせていただきました。2021年5月のピーク時に20名の看護教員の協力がありました。

ご協力させていただきました業務内容は、新型コロナウイルス感染症の陽性者の積極的疫学調査の実施(訪問、電話)、自宅療養者の電話での体調確認などが中心ですが、その他、資料整理等などの業務も行いました。

第4波が発生した4月末から5月には協力させていただいた教員たちは、患者発生数が激増し医療機関は満床、自宅療養を余儀なくされている状況、そして発熱や酸素飽和度の低下があっても入院調整が困難な状況を目の当たりにし、やるせない気持ちでいっぱいでした。それと同時に、保健師さん方が、連日夜間まで勤務されながらも非常に丁寧な対応をされている姿を見て、少しでも保健師さん方が休めるように力になりたいと語っていただく教員も多かったです。

今回、保健所・保健センターの業務を経験させていただき、現代の日本で、神戸で、医療が崩壊し、自宅で多くの方が医療を受けられない実態を目の当たりにしたことは、今後の看護師、保健師の教育の在り方を含めて、医療、保健の体制を考える貴重な機会となりました。



コロナ禍での実習 ～リアルさを追求した訪問看護オンライン実習～

丸尾智実 准教授



「オンライン実習の様子」

訪問看護実習では、訪問看護師の実践に看護師が立ち会いビデオ撮影したものを教材としています。様々な教材用のVTRがありますが、自宅に入った瞬間に始まるアセスメント、コミュニケーション技術、家族の支援等、自宅で看護するプロセスをそのままリアルに学習できるのはこの教材だけです。学生のためにと協力してくださった訪問看護師、ご自宅で療養されている方・ご家族のおかげで、コロナ禍においても学びを深めることができました。

学生からは「看護師の関り方の意味を考えられた」「見る焦点が絞られて訪問看護実践をより捉えられた」と感想が寄せられています。学生にはご協力いただいたすべての方に感謝しながら学びを深めることを期待しています。

～2020年度国家試験 合格おめでとう！～

看護師

99%

保健師

100%

助産師

100%



私の研究室は、「経験社会学」の研究室である。これまでの卒業研究では、先輩達は「日本代表女子車椅子バスケットボール選手の日常の中のジェンダー」や「透析患者が隠れておやつを食べることの有意味さの研究」等をしてきた。対面コミュニケーションは必須だった。しかし、昨年からコロナ禍で、今はほとんどの調査ができない。そのような中、今年の学生の内の1名は、「ネット上のゲーム空間内でのアバター同士のコミュニケーションの秩序」をテーマに立て、順調に研究を進めている。とはいえ、ゼミがオンラインなのでやりにくい。なかなかうまくいかないものである。



「バーチャル世界でのコミュニケーション研究」
(画像提供：大前大輔)

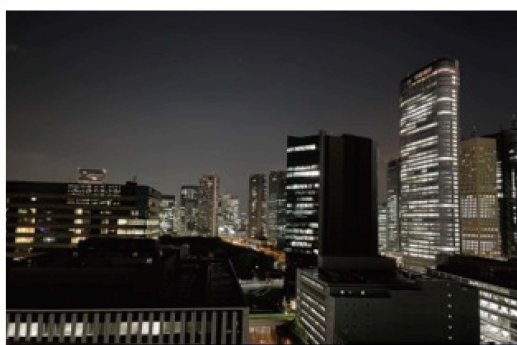


修了生からのメッセージ



神戸市立
中央市民病院
看護師 梅田みゆき

私は、2020年度に精神看護学分野の研究コースを修了しました。自施設では、新型コロナウイルス感染症の専門病棟で勤務しています。家族の面会制限もあるため、患者様は隔離の環境下で、孤独に闘病しています。不安を抱える人も多く、大学院で学んだ精神看護学の知識を活かす場面も多くあります。現在は、私は、新型コロナウイルス感染症患者の看護について知ってもらおうと、2名のスタッフとともに、学会発表の準備をしています。大学院に進学するまでは、必死で実践することしかできませんでしたが、修士課程で学ぶ中で、看護を言語化する楽しさを知ることができました。今後も、修士課程での学びを活かして、日々の実践を積み、研究にも取り組んでいきたいと思っています。



国立研究開発法人
国立がん研究センター
中央病院
看護師 秋山 希海

看護師になり2カ月が経ちました。少しずつ受け持つ患者さんの数も増え、大変なこともあります。看護師になったことを実感し楽しい毎日を送っています。日々努力していることとして、受け持ち患者さんの看護や業務での不明点をそのままにせず解決するために自己学習をするようにしています。また、社会人として休まずに出勤することを目標に生活リズムを乱さないように心がけています。

働き始めて、学生の時の経験が自分の強みになっていると感じることが多々あります。学生の間にしっかりと基礎を身につけておくことで自信をもって働くことができます。今の学びを大切に、日々頑張ってください！私も看護師として成長するとともに素敵な看護師になれるように頑張ります。



学長 南 裕子

～ワクチン職域接種事業の開始を前に～

新型コロナウイルスによる感染拡大とその対応に本学はすでに500日以上費やしてきました。その間に3回の緊急事態宣言、2回のまん延防止特別措置の元に教育・研究・社会連携活動が目まぐるしく変わってきました。そして、マスクや手洗い、3密を避ける行動など新しい生活様式だけでは、変化するウイルスの脅威には十分に対応できるのか懸念されるようになりました。そのなかで突然、ワクチン職域接種という新しい制度が提案されました。神戸市と本学との北徹理事長の強力な後押しもあり、神戸市外国語大学と共同できることになり、厚労省や文科省の許可も下りて、いよいよ6月21日から希望するすべての学生と教職員等のワクチン接種が可能になりました。準備期間は2週間でしたが、本学教職員が日ごろから培ってきた力を精力的にあわせて急ピッチで準備ができたおかげです。皆様に感謝、感謝です。

